

災害支援と防災技術 ～文部科学省の関わり～



参議院議員・薬剤師 本田 顕子

元日の能登半島地震に際し、お悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、水道、電気、通信、道路等の復旧、避難されている皆様と全国の薬剤師の先生方をはじめ支援にご尽力いただいているすべての皆様の健康と安全を願っております。

1月26日に第213回通常国会が開会しました。

同30日の参議院での施政方針演説では、被災地・被災者への切れ目ない息の長い支援について言及がありました。

政府全体で取り組んでいます「被災者の生活と生業支援のためのパッケージ」の一環として、文部科学省では、高校・大学などの入試への特例的・弾力的対応のほか、被災した児童生徒等への学習支援や心のケア等に必要な教職員等の配置、新学期の開始に係る柔軟な取扱いなどの対応をとっているところです。

また、文部科学大臣政務官としての担務の範疇では、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC：<https://www.jamstec.go.jp/j/>）の研究船「白鳳丸」による海底地震計等の設置と海底地形調査、国宝・重要文化財41件を含む約370件（1月29日現在）に及ぶ文化財・文化施設の復旧支援などを行っています。

JAMSTECと同様、旧科学技術庁の流れを汲む国立研究開発法人防災科学技術研究所では、これまでの研究成果から築き上げた「基盤的防災情報流通ネットワーク」によって共有される災害関連情報を集約して発信するWebサイト「防災クロスビュー」(*)に、能登半島地震発生当日、専用サイトが開設されました。

車両通行可能な道路、自衛隊による給水・入浴支援が行われている箇所、通話可能なエリアなどをマップ上で知ることができ、断水状況や住家被害状況などの確認もできますので、避難生活や支援活動の一助になればと思います。

(*) <https://xview.bosai.go.jp/view/index.html?appid=41a77b3dcf3846029206b86107877780>

通常国会で審議予定の令和6年度予算案では、海底地震・津波観測網の構築・運用や火山・気象災害を念頭に置いた調査研究などを推進するための事業費・研究費を計上しています。

震災大国と言われるわが国は科学技術立国でもあります。自然災害に対する強靱な社会づくりのため、防災科学技術関連予算の早期成立に向けて頑張っています。



令和5年11月17日
国立科学博物館にて「震災からのあゆみ」を視察